

## 事業実施報告書

法人名	特定非営利活動法人アシストさいたま
活動名	すべての子に学べる環境を！
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	人間分野
<b>事業の目的</b>	
賃金格差、物価の高騰は止まることなく一般家庭の家計を圧迫している現代で、我慢を余儀なくされているのが子供たちです。貧困家庭はもとより、納税家庭でも家計は逼迫しており、最初に削減されるのは教育費だと言われています。塾などの教育費を惜しみなくかけてもらえる家庭の子は上位校に進学できる時代です。塾などに通う事が出来なくても、少し助けてあげるだけで、自力でレベルアップできる子はたくさんいます。子供のレベルアップは貧困のループを断ち切る事にも繋がります。じっくり向き合わなければならない子もいますので、一括りにせず個々の能力と性格に合わせた指導をすることで心の安定も提供できると考えます。子供の心の安定は、親の心の安定にも繋がります。教育費は勉強だけでなく、スポーツや健康面にも大きな影響を及ぼしているようです。学校教育での水泳授業はもはや泳げるようになるものではなくなっています。泳げない子が急増しているのです。水害時への不安なども多く聞きます。地域団体としてできることは小さなことですが、大事な事だと思っています。	
<b>事業で取り組んだ地域や社会の課題</b>	
近年、賃金格差の拡大や物価高騰が続き、一般家庭の家計は大きな負担を抱えています。特に子育て世帯では、生活費の圧迫により真っ先に削減されるのが教育費であり、貧困家庭に限らず納税家庭でも十分な学習機会を確保できない状況が広がっています。経済的に余裕のある家庭の子どもは塾や習い事を通じて上位校進学の機会を得やすい一方、少しの支援があれば自力で成長できる子どもたちが、環境の差によって力を伸ばしきれない現実があります。こうした教育格差は、将来的な貧困の連鎖にもつながる深刻な社会課題です。また、教育費削減の影響は学習面にとどまらず、スポーツや健康面にも及んでいます。学校の水泳授業では十分な泳力が身につかず、泳げない子どもが増加しているとの指摘もあります。水害時の不安を抱える保護者の声も多く、基礎的な体力や安全教育の不足は地域全体の課題と言えます。さらに、子ども一人ひとりの性格や能力に応じた丁寧な関わりが不足すると、学習意欲だけでなく心の安定にも影響が及びます。子どもの心の不安定さは家庭にも波及し、親の精神的負担を増大させる要因にもなります。地域団体が提供する学習支援や体験活動は子どもの成長と家庭の安定を支える重要な役割を果たしています。	
<b>取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果</b>	
子ども居場所づくりプロジェクトとして、学習教室、工作教室、初心者水泳教室を実施しました。実施回数・参加人数《学習→60回・延べ約480人、工作→2回・延べ28人》 学習教室では、不登校で学習が滞っている子、受験生だけ塾は行っていない子、自習室が無くて困っている子など多くの要望とニーズに応じて、夏休みは週3日以上ペースで実施してきました。居場所づくりとしては、朝から夜まで教室を開けて自習に対応してきました。多子世帯は貧困ではなくても、塾に行かせるのは厳しいという家庭が多く、昨今の物価高騰などの影響もあり塾に行けることいけない子の格差がどんどん広がっています。勉強する機会を与えることは、貧困のループを断ち切ることになります。また、不登校のお子さんの親御さんからの相談も増えています。工作教室を実施することによって、その場に気軽に来られる雰囲気づくりをしました。海なし県さいたま市ですが、さいたま市では水泳授業の減少で泳げない子が増えています。本事業では限られた予算と回数の中で多くの子どもを受け入れ、水への恐怖を克服し泳げる子を着実に増やす成果を上げました。実施回数・参加人数《水泳→9回・延べ約150人》	
<b>事業実施により達成した成果の具体的な内容</b>	
昨年まで学習教室は月に1回の実施でしたが、もっと回数を増やしてほしいとの要望が多く、今年度は週1回で計画書を提出しました。開始前から、とにかく回数を増やしてほしいと要望が多かったため、居場所として長時間教室を希望者に提供し、個別教室のスタッフに2回に1回ボランティアでお願いし、夏休みは週3回実施しました。勉強する機会を与えることで向上心も芽生えます。勉強だけでなく、ただ話を聞いて欲しい…という子もいます。学校で友達が少なく、話をする場を求めている子もいます。多くの需要に応じて、昨年からは、教室は毎日休むことなく開けるようにしています。それでも、その場に来るまでに時間がかかる子がとても多いため、足を踏み入れるハードルを下げるた各種SNSをはじめ、多くの子供の目に触れるようにしました。水泳教室への問い合わせは年々増加していますが、沼影市民プールの閉鎖と新施設の規模縮小により、受け入れ可能人数が大幅に減少しました。そのため、限られたキャパシティを補うために開催回数を増やす必要が生じました。ニーズは非常に高く、継続を強く希望する声も多く寄せられましたが、事業終了に伴い受け入れられない子どもが出てしまい、大変心苦しい状況となりました。	

<b>費用面での工夫</b>
<p>本事業では、限られた予算の中でできるだけ多くの子どもを受け入れるため、費用面での工夫を徹底しました。まず、会場費や指導者人件費を最小限に抑えるため、利用可能な時間帯を細かく調整し、効率的なスケジュールを組むことで、同一コストで受講枠を最大化しました。また、指導内容を見直し、短時間でも効果が得られる指導法を採用することで、1回あたりの運営コストを抑えつつ、子どもたちの泳力向上につながる質の高いプログラムを維持しました。</p> <p>さらに、必要な備品については新規購入を極力避け、既存資源の再利用することで可能な限り費用の削減に努めました。</p> <p>一方で、子どもに直接関わり、成長を支えるためには質の高い指導者が不可欠であり、人件費は削ることのできない重要な経費です。費用を工夫しつつも、必要な人材を確保し、安心して学べる環境を維持することを最優先としました。</p>
<b>地域社会への還元</b>
<p>本事業は、学習、運動の両面から子どもたちの成長を支える取り組みを行い、地域社会に大きな還元をもたらしました。水泳教室では、学校授業の縮小やプール施設の減少により泳げない子が増えている現状を受け、限られた枠の中でも多くの子どもを受け入れ、恐怖心の克服や基礎泳力の習得といった確かな成果が得られました。</p> <p>水害時の安全確保にもつながる技能を身につけたことで、保護者からは安心の声が多く寄せられています。</p> <p>学習支援では、物価高騰や教育費削減の影響で十分な学習機会を得られない家庭が増える中、経済状況に左右されず学べる場を提供しました。</p> <p>個々の理解度に合わせた指導により、学力向上だけでなく「勉強が楽しい」「自信がついた」といった精神的な成長も見られ、家庭内の安定にも寄与しました。</p> <p>これらの取り組みは、教育格差の緩和や子どもの健全育成に直結し、地域全体の安全性・教育力の向上に貢献しています。事業を通じて得られた成果は、地域社会にとって大きな価値を持つものとなりました。</p>
<b>今後どのように事業を継続し発展させるか</b>
<p>本事業は、水泳教室や学習支援を通じて多くの子どもたちの成長に寄与し、地域からも継続を望む声が数多く寄せられています。しかし、事業を安定的に継続するためには、資金面での課題が依然として大きく、特に人件費や会場費など、質の高い支援を維持するために必要な経費を確保することが重要です。子どもに直接関わる指導者の育成や確保には一定の人件費が不可欠であり、ここを削ることは事業の質の低下につながるため、慎重な判断が求められます。</p> <p>今後は、限られた予算の中で効率的な運営を続けつつ、寄付や助成金の獲得に向けた取り組みを強化していきます。地域企業や個人からの寄付の呼びかけ、助成金制度の情報収集と申請体制の整備など、資金源の多様化を図ることで、事業の安定性を高めたいと考えています。</p> <p>また、事業の成果を積極的に発信し、地域にとって必要不可欠な取り組みであることを広く理解してもらうことで、支援の輪を広げていくことも重要です。</p> <p>これらの取り組みを通じて、子どもたちが安心して学び、成長できる場を継続的に提供し、地域社会に貢献し続けられるよう努めていきます。</p>

## 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人アシストさいたま

### 1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	500,000	500,000	0	
自己資金	191,432	230,040	38,608	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	691,432	730,040	38,608	

### 2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	10,560	9,240	△ 1,320	
通信運搬費		0	0	
旅費交通費		0	0	
消耗品費	110,000	105,490	△ 4,510	
備品費		0	0	
委託費	98,872	79,310	△ 19,562	
謝金	100,000	80,000	△ 20,000	
人件費	372,000	456,000	84,000	
その他		0	0	
支出の部 合計	691,432	730,040	38,608	